

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

なお、新しい教育要領、学習指導要領が平成 30 年度より各校種で順次完全実施されていることに伴い、各校園において適切に教育課程が編成され、実施されるよう研究に取り組むことが大切である。

◇ 中 学 校

(1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、小・中学校の9年間を見通した学習の系統性を重視し、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法や I C Tを活用した指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化に親しみ、継承・発展させる態度を育成するために、古典に親しむ態度を育成する指導方法、生活に役立つ書写の指導方法、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養う指導方法等について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(2) 社 会

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の実態や習熟の程度に応じた課題学習、補足的な学習、発展的な学習などの学習活動や、生徒一人一人の主体的な学習を促す「問い」や「資料」を中心に据えた授業展開、I C Tを活用した指導方法などについて研究

する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

エ 社会科の目標を達成するために、小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開する教科の基本的な構造を踏まえた指導計画、また、高等学校地理歴史科や公民科との接続を踏まえた指導計画について研究する。

(3) 数学

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む「数学的活動」を各領域で行い、問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力を育むとともに数学的に考える資質・能力を育成することや「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、一人一人の生徒が様々な思考や創意工夫を行い、意欲的な追究を継続することができるように、学習内容の習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の観点別に、目標に準拠した評価を行い、新学習指導要領の観点も視野に入れながら指導と評価の一体化についてさらに研究を進める。

(4) 理科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ科学への関心を高めるとともに、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習、発展的な学習やICT機器を活用した学習活動などを取り入れた指導方法の改善について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、小学校との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(5) 音楽

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、豊かな音楽体験を積み重ね、

音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導方法について研究する。

イ 音楽文化について理解を深め、豊かな情操を培うために、校種間連携の機会などの多様な活動場面を通して、生活や社会の中の音や音楽への興味・関心を高め、創意工夫して表現し主体的に鑑賞する能力を育てる指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導を展開するために、題材目標の設定や教材の工夫・改善を行うとともに、生徒一人一人のよさを生かした指導やICTを活用した指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価を一体化させた指導計画・評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(6) 美術

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させるとともに、題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた適切な指導、効果的な評価のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習内容について調和のとれた指導計画の作成、育成する資質・能力を明確にし、生徒の実態に応じた題材の設定、ICT機器を効果的に活用した指導方法について研究する。

ウ 美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うために、行事との関連や大阪の教育資源の活用、我が国の美術文化をはじめとして、諸外国の美術や表現との出会い、学校・保護者・地域・校区小学校などとの連携など多様な活動場면을研究する。

(7) 保健体育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることのできる学習や、健康な生活と疾病の予防について課題を発見できる学習のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人の体力や体の状態を把握したうえで、体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図れるよう運動の計画を立てさせる。また、個人生活における健康・安全に関する理解が図れるよう研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、具体的目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価方法について研究する。

(8) 技術・家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成を図るために、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体

験的な活動を通して、生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能の習得を図る。また、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養うとともに、他教科等との連携を図り、各分野の指導内容と指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習課題の解決に必要な技能の習得状況を把握し、必要に応じて少人数指導や教材・教具を工夫することで、生徒が自ら設定した課題の解決策を実現できるよう、効果的な指導のあり方について研究する。また、生徒一人一人が興味・関心を踏まえた学習課題を設定できるよう、発達の段階に応じて、問題を見いだす範囲を生徒の生活範囲から社会に徐々に広げていくなど、効果的な題材計画について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図り、指導と評価の一体化など、評価のあり方について研究する。

(9) 英語(外国語)

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成等を図るために、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業のあり方について研究する。

イ 個に応じた指導のあり方を工夫するために、外国語を学ぶ意義やコミュニケーションの有用性を実感させるとともに、ICTを活用する等生徒の興味・関心や実態に応じた課題学習、学習活動を取り入れた指導方法のあり方改善について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「CAN-DO」リスト形式での学習到達目標を設定の上、生徒一人一人の成果を確認し、指導に生かして、確実に生徒の力を伸ばしていくとともに、生徒自身が改善の努力目標をもち、自己評価能力を育て、自力で学ぶ力を育成していく評価のあり方を研究する。

エ 小学校における外国語活動・外国語科との関連を図るために、小学校における外国語(英語)教育を通じて培われた基礎をふまえながら中学校での英語教育への円滑な接続が実施できるよう小学校との連携のあり方を研究する。

(10) 道徳

ア 人間尊重の精神を更に深化させ、生徒の内面に根ざした道徳性を育成するために、道徳教育の全体計画では、道徳教育の要としての道徳科の役割と重要性をふまえつつ、教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を生かした指導を充実する。また、計画そのものに具体性をもたせ、教育活動全体において生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実を図るとともに、道徳的実践につながる道徳教育のあり方について研究する。

イ 生徒が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳科の年間指導計画では、いずれの学年でも内容項目を全て取りあげて計画的に位置付けながら重点化を図る。また、

道徳科の教科書を活用した授業では、学習指導要領に基づいて、生徒自らが人間としてよりよく生きる深い学びを獲得できるよう、教材分析を行うとともに発問を工夫し、生徒と教師、生徒相互の対話を大切にしたい指導のあり方について研究する。

(11) 総合的な学習の時間

ア 自ら課題を解決する資質や能力を育て、自己の生き方を考えることができるようにするために、総合的な学習の時間と各教科等の関連を図りつつ、総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということ、各学校の教育目標をふまえて設定するとともに、その目標の達成に向けたカリキュラム・マネジメントのあり方について研究する。

イ 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するために、総合的な学習の時間の「課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現」の探求のプロセスを重視し、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動、コンピュータを活用して情報を収集・整理・発信する学習活動のあり方について研究する。

(12) 特別活動

①学級活動・生徒会活動・学校行事

ア 学級活動では、学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、自己実現を図ろうとする活動について研究する。

イ 生徒会活動では、異年齢の生徒同士で協力し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに自主的・実践的に取り組むことを通して、行動の仕方を身に付けるように研究する。

ウ 学校行事では、全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養いながら、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるよう研究する。

②進路指導

ア 生徒が自らの個性を伸ばし、自己実現をめざして、自己の生き方を考え、将来に対する目的意識をもって主体的に進路選択ができるようにするため、進路指導の目標を明確にし、生涯にわたる系統的な指導内容、3年間を見通した指導計画などについて研究する。

イ 進路について目的意識を高めるために、進路に関わる体験活動、進路情報・資料を活用した学級活動や進路相談との関連を図り、ガイダンス機能の充実について研究する。

ウ 社会の一員としてのあり方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成するために、生徒一人ひとりが将来の働き方・生き方を主体的に考え行動できるよう、「育成すべき能力」「達成すべき基準」を示しつつ、生き方や進路に関する体験的な学習を通して、実社会

で働く人々からの支援や、地域社会と連携した指導方法など、系統的なキャリア教育の進め方について研究する。

(13) 生活指導

ア 生徒理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめとする生活指導上の諸問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から生徒理解に努めるとともに、教育全体に関わる基本的な問題として正しく受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関との連携について研究する。

イ 一人一人の生徒を生かした集団の育成を図るために、生徒の生活背景を正しく把握したうえで、生徒の願い、悩み、不安を単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての生徒が自らの課題として正しく受けとめ、自主的に判断し、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 小学校・中学校・高等学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを正しく受けとめ、小学校・中学校・高等学校相互の連携を密にし、一人一人の生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

(14) 特別支援教育

ア 生徒の自立への可能性を最大限に伸ばすために、学校の教育活動全体を通じて、共に育ち共に学びあう交流および共同学習を進め、生徒の多様な経験の場とし、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる効果的な指導・支援の方法について研究する。

イ 個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、合理的配慮の観点をふまえ、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を積極的に活用し、発達障がいを含め多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援の方法について研究する。

ウ 生徒の実態を的確に把握し、指導・支援を充実するために、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

エ インクルーシブ教育システムの充実と推進のために、生徒が共に学ぶための合理的配慮に基づく学習環境の整備として、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

オ 新学習指導要領の各教科の項目に明記された「学習上の困難に応じた指導の工夫」が広く進むよう、指導・支援方法の研究を深める。

(15) 保健養護（保健教育）

ア 心豊かに生きようとする力を養うために、生徒の一人一人が自己肯定感をもち、よりよい人間関係の構築が図れるよう、学校・家庭・関係諸機関との効果的な相互連携のあり方や、健康相談について研究する。

イ 健康に対する関心を高め、疾病などについての科学的な理解を通して、適切に判断し行動できる資質や能力を養うために、関連する教科や特別活動、総合的な学習の時間などを活用した保健教育の充実と指導方法について研究する。

ウ 生徒が安全、安心に学校生活を送るために、学校管理下での災害の予防に関する短期的・長期的展望による指導内容を充実させ、さらに自然災害発生時の対応と生徒の心のケアについて研究する。

(16) 情報技術

①情報教育

情報教育の深化・充実を図るために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの目標や内容をふまえ、適切な情報手段やICT機器を利用しながら、自ら課題を明確にし、解決する能力や態度を育てる指導方法について研究する。

②新聞教育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図るうえで必要な言語環境を整え、生徒の言語活動の充実を図る方策について研究する。その際、新聞を情報の収集・摂取の有力な言語環境として、各教科で新聞の情報摂取から情報創造、情報伝達の指導過程を組織する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導の成果だけでなく、指導の過程における学習に対する努力や意欲などを総合的にとらえる評価のあり方を研究する。

(17) 教育メディア

①学校図書館教育

ア 読書センターとしての学校図書館。豊かな感性を育成するため、学校図書館の活性化を進め本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発にする方法について研究する。

イ 学習・情報センターとしての学校図書館。生徒があらゆる学習に主体的に活用するため、資料や情報の収集・選択・活用能力を育成する学校図書館の運営のあり方や利用指導の方法について研究する。

②視聴覚教育

基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成のために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの指導において、視聴覚教材・ICT機器を活用するとともに、視聴覚教材・放送教材・ICT機器の特性を生かした利用方法などについて研究する。